

二年生 (教科書 光村2年上)

ふきのとう

くどう なおこ 作
ひらおか ひとみ 絵

目標

- ・ ふきのとうが顔を出し、春になった喜びを味わいながら音読できる。

第一次指導 概観指導 (一時間)

〈区画〉九区画 (本の区画に合わせ)

一 よむ (音読 九名)

- 席順に、大きな声でゆっくりと読む。
- 聞き手は、立腰、集中して聴く。
- 読後、読み手と聞き手を評価する。

二 とく (読後感の整理の話し合い)

○ 題目 (教材の輪郭を確認する)

- ・ ふきのとう、と板書し、ふきのとうの絵を探し、最後に顔を出したものを見つける。(p16の絵 蕾・雪の確認)
- ・ 見上げると何が。(竹・日)の絵へ
- ・ p14・15の絵を読む。(動きと春風)
- ・ 春風が目を覚ましたのですっかり春になったというお話。

◎ ひびき (話の楽しさに触れる)

- ・ ふきのとうの願いは、みんなの願い。

○ 手引き (視写の指示)

- ・ それぞれの区画の「」の声は誰か。

三 よむ (手引きに従い黙読)

四 かく (視写 教師も板書 板書事項参照)

五 よむ (指黙読一回・指音読二回)

六 とく (板書部分について話し合う)

○ 事実 (板書事項の関連づけ)・区分

- ・ 笑顔になっている「ふきのとう」は。
- ・ 8は「こんにちは」2は「よいしょ」
- ・ 「よいしょ」頭に載っているのは。
- ・ 雪は、何になりたいの。(水)
- ・ 水になるのには誰の力欲しいの。
- ・ お日様。でも、誰が活躍しないの。
- ・ 春風の温かい風で踊ったのは。
- ・ 「ふかれて、ゆれて、とけて、
- ・ ふんばって、もっこり、にっこり」と、春になりましたという楽しい話

◎ 山 (話の山の発見)

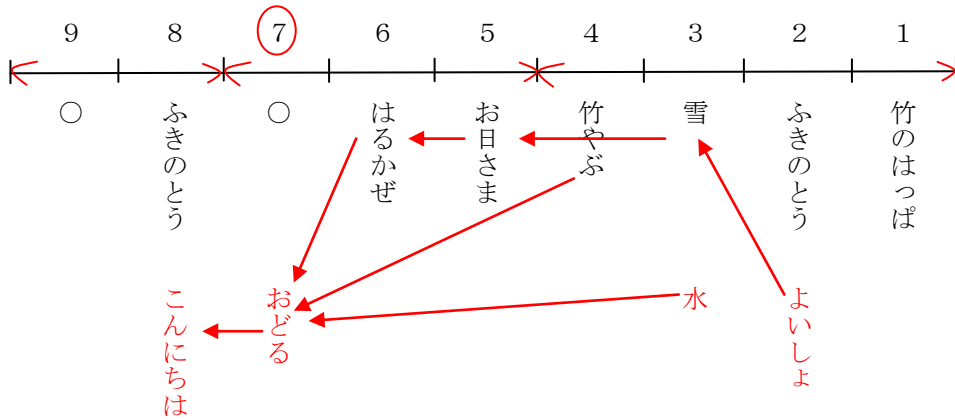
- ・ ふきのとうと雪の願いが、竹藪とお日様と春風の協力で叶えられたところ。
- ・ 余韻 読んでいて温かくなるなあ。

七 よむ (学習を振り返りながら音読)

- ・ 指音読 (鞭の指揮で音読)
- ・ 暗唱 (字を消しながら 順に)

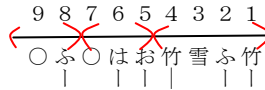
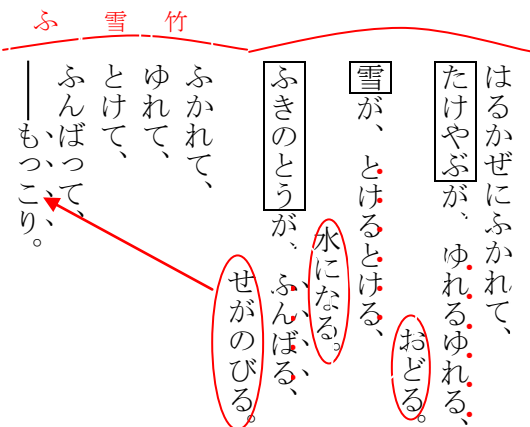
* 余った時間で会話の部分を読む。

〈板書事項〉



第二次指導 詳しく読む (第一時)

- 一 よむ (音読 九名)
- 二 とく (本時の足場を作る話し合い)
- おさらい (前時六とくの復習)
 - ・ (前時の横線と数字を右上の短く板書)
 - ・ 春風が起きたのは、何番か。(6)
 - ・ (6の下には―と板書) 起こし役は。
 - ・ (5の下に お―と板書) 4, 3, 2は。
 - ・ (竹―、雪、ふ―と板書) 残りは。
 - ・ (1竹―、8ふ―、7・9は○)
- ◎ 承接 (本時につなぐ)
 - ・ 春風が吹いてくる方角は。(南)
 - ・ 南から吹いてくる春風は、どんな吹き方をしましたか。(胸いっぱい息)
 - ・ 温かい風を受けて竹藪も喜びました。
- 手引き (視写の指示)
 - ・ 春風が吹いてみんなが元氣動いているのは何番。(8) そこを全文書く。
- 三 よむ (手引きに従い黙読)
- 四 かく (視写 教師も板書 板書事項参照)
- 五 よむ (指黙読一回・指音読一回)
- 六 とく (板書部分について話し合う)
- 語義 (難語句解消)・区分
 - ・ ふんばる ―― もっこり
 - ・ 二区分後、竹・雪・ふきを区分
- ◎ 心 (文章の核心を掴む・味わう)
 - ・ それぞれの動きを押さえる。



- それぞれの喜びを押さえる。
- 余韻 楽しそうだな。覚えよう。
- 七 よむ (学習を振り返りながら音読)
 - ・ 指音読 (鞭の指揮で音読)
 - ・ 暗唱 (字を消しながら 順に)
- (板書事項)

第二次指導 詳しく読む (第二時)

- 一 よむ (音読 九名)
- 二 とく (本時の足場を作る話し合い)
- おさらい (前時六とくの復習)
 - ・ 踊って喜んだのは。水になって遊べと喜んだのは。ふきは何を喜んだ。
 - ・ (竹―、雪、せ―と板書)
 - ・ その喜びを詩のように書いてたね。
 - ・ (ふ―、ゆ―、と―、ふ―、―と板書)
- ◎ 承接 (本時につなぐ)
 - ・ もっこりと出たのは。(顔)
 - ・ すっかり春になった話
- 手引き (視写の指示)
 - ・ みんなの声を書きます。先生は全部書きますが、皆さんは、自分の気に入った「―」の部分を書いてください。(部分的に空欄した用紙を配布という方法もある。)
- 三 よむ (手引きに従い黙読)
- 四 かく (視写 教師も板書 板書事項参照)
- 五 よむ (指黙読・指音読)
- 六 とく (板書部分について話し合う)
- 語義 (難語句解消)・区分
 - ・ よいしょ けど すまない でも
 - ・ おや や おまちどお
- ◎ 心 (文章の核心を掴む・味わう)
 - ・ 区分 話者の確認 三区分

- ・ 優しさが出ている字は。
- ・ 春風の面白さの出ている字は。
- 余韻 読み方を工夫すると楽しいな。
- 七 よむ (学習を振り返りながら音読)

- ① 班ごとの役割分担で読む。
- ② 希望者に役割を与えて読む。
- ③ 教科書の地の文を担当が読み、班ごとに役割り読み。

〈板書事項〉

ふ	は	日	竹	雪	ふ	竹
「こんにちは。」 「や、お日さま。や、みんな。おまちどお。」	「おうい、はるかぜ。おきなさい。」	「おや、はるかぜがねぼうしているな。竹やぶも雪もふきのとうも、みんなこまっているな。」	「すまない。」 「わたしたちも、ゆれておどりたい。ゆれておどれば、雪に日があたる。」 「でも、はるかぜはまだこない。はるかぜがこないと、おどれない。」	「ごめんね。」 「わたしも、早くつけて水になり、とおくへ行ってあそびたいけど。」 「竹やぶのかげになって、お日さまがあたらない。」	「よいしよ、よいしよ。おもたいな。」 「よいしよ、よいしよ。そとが見たいな。」	「さむかったね。」 「うん、さむかったね。」

第三次指導 形式 (第一時間) 発展応用例

- 一 よむ (地の文九名と登場人物四名)
- 二 とく (本時の足場を作る話し合い)
- おさらい (全課の復習)
 - ・ ね・な・やなどの短い言葉にも気持ちが出ています。
- ◎ 承接 (本時につなぐ)
 - ・ 声の出し方が分かる言葉を探す。
- 手引き (視写の指示)
 - ・ p19の例文と新しい漢字を書く。
- 三 よむ (手引きに従い黙読)
- 四 かく (視写 教師も板書 略)
- 五 よむ (指黙読一回・指音読二回)
- 六 とく (板書部分について話し合う)
- 発展応用 (例文作りをする)
 - ・ はるかぜがふくと、竹やぶがゆれる。
 - ① ボタンをおすと、かえるがでる。
 - ② こおりをいれると、水がこぼれる。
- 読 大きなこえで読みましょう。
- 言 ゆっくり言ってください。
- 書 音読とノートに書きました。
- 雪 雪が山にのこっています。
- 南 南をむくと、左が東です。
- 絵 絵を見て文を書いてみよう。

★筆順の二原則 (上下左右) を押さえ、その他は必要に応じて指導する。(今回は小・十)

七 よむ (学習を振り返りながら音読)

指音読後暗唱し、家庭で書かせる。